



統計スポット情報

No. 123

H18. 9. 29

福井県総務部政策統計室

福井県の就業率

現在、雇用情勢を示す代表的な指標としては、完全失業率（注1）が用いられますが、最近社会問題となっている「ニート（注2）」の存在や高齢化の進行に伴う労働力人口の減少などは、「完全失業率」には反映されません。

こういった状況の中で、就業状況の実態に視点を当てて、15歳以上の人口のうち、実際に仕事に就いている人数の割合を示す「就業率（注3）」が新たな指標として注目を浴びつつあります。

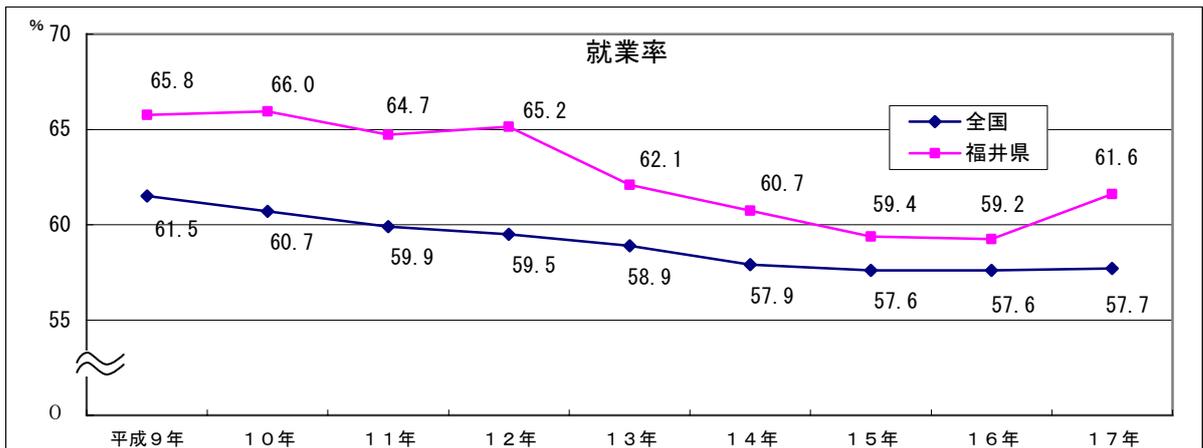
そこで、今回は、福井県の就業率についてみていきたいと思います。

○就業率の推移

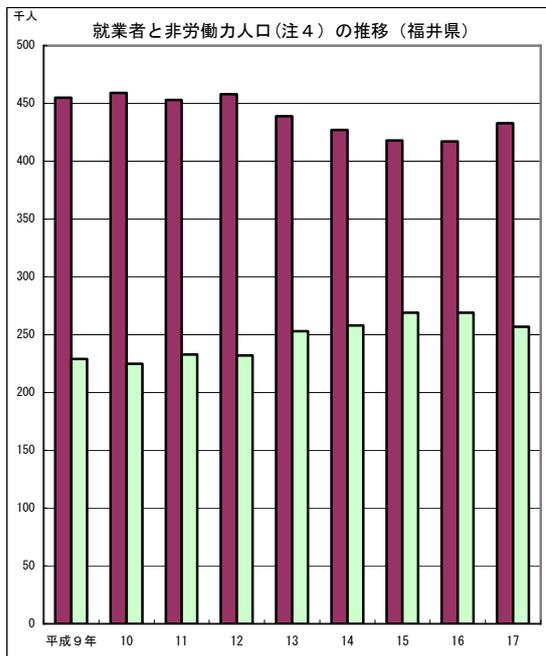
総務省の労働力調査から本県と全国平均の就業率の推移（図1）をみると、本県は常に全国平均よりも高い水準を示していることが分かります。

全国平均が平成14年から横ばい傾向にあるのに対して、本県は平成17年に前年より2.4ポイントの改善が見られます。これは、景気の回復に伴い、本県の雇用情勢が改善されたことによるものと思われます。

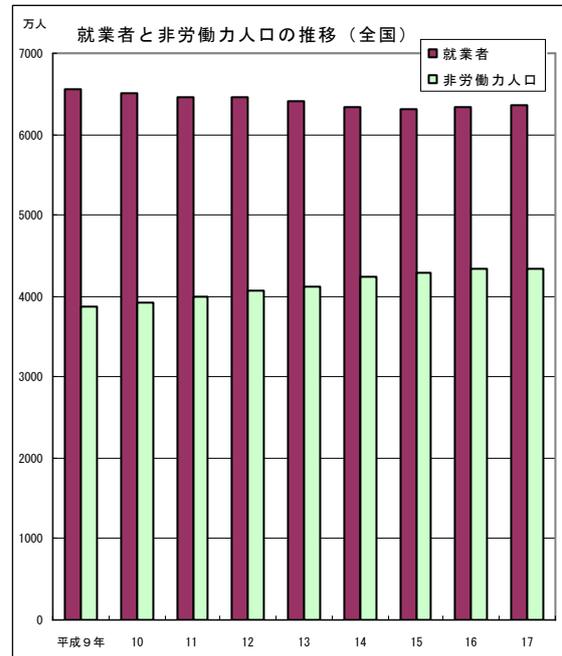
（図1）



（図2）



（図3）



資料：総務省労働力調査 モデル推計値

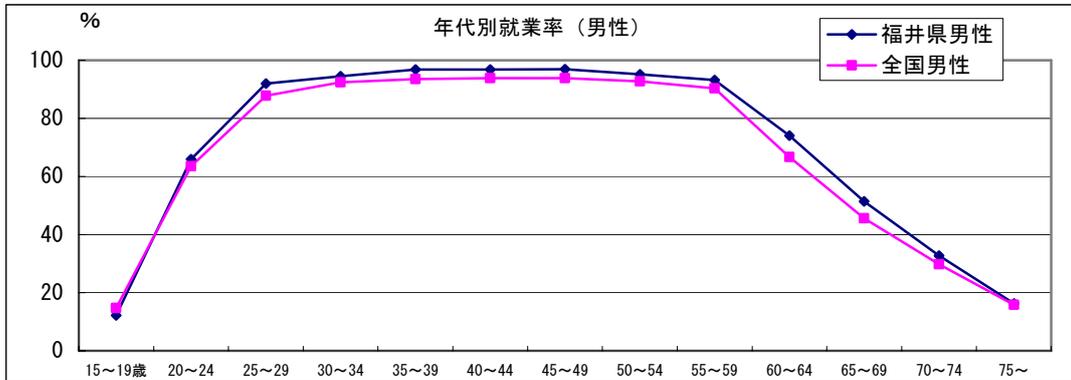
《裏面へ続く》

また、図2、3をみると、本県は16年から17年にかけて、就業者が増加して非労働力人口が減少しているのに対して、全国の就業者は微増で、非労働力人口は年々増加しています。

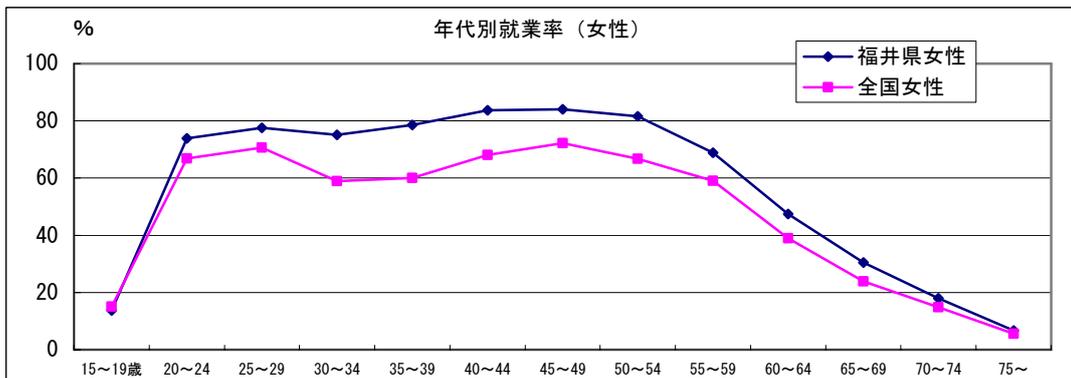
○年代別・男女別の就業率

男女別の就業率について全国平均と比較すると、図4、5のとおり、男女とも全国平均より高くなっていますが、特に女性は高い水準となっています。

(図4)



(図5)



資料：平成17年福井県労働状況調査

中でも、30～40代女性の就業率が、全国平均と比較して高い率を示しています。

これから、本県では、結婚・出産を経ても離職せずに、子育てをしながら仕事を続けている状況が見て取れます。

また、40代女性の10人中8人が仕事に就いており、これは子育てのために一時離職したものの、子育てが一段落して、再び職に就く女性がいることを示しています。

先に県が公表した「少子化と合計特殊出生率について」の中で、「女性の就業率」、「共働き率」などが、出生率と相関があると分析されています。

本県では、30代を中心に、子育てと仕事を両立して頑張る元気な女性が多く、このことが本県の合計特殊出生率が他県に比べて高い要因のようです。

(注1) 完全失業率は、労働力人口に占める完全失業者の割合。

(注2) ニートとは、15～34歳の学校卒業生で、仕事もせず、求職活動の意志もなく、家事・通学をしていないもの。

(注3) 就業率は、15歳以上人口に占める就業者の割合。 (注4)

それぞれの統計結果は、下記のアドレスをご覧ください。

総務省労働力調査 <http://stat.go.jp/data/roudou/index.htm>

福井県労働状況調査 <http://toukei.pref.fukui.jp>

「少子化と合計特殊出生率について」 <http://toukei.pref.fukui.jp>

